

No. 90

公民館だより

平成5年8月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

自己実現

館長 小室 哲 寛

「生きがいと豊かさのある人生を」とか、「人間としていつまでも成長しつづける学習を」とか、「創造性のある自己実現を」とかの言葉を度々見聞するのであるが、これはおなじみの人づくりや生涯学習のキャッチフレーズである。ところが考えて見ると、これ等の言葉は実は個人がひそかに希求している人間本来の願望そのものでもあると気づくのである。この点から言えば、生涯学習や人づくり町づくりは、人間本来の願望や欲求に沿って進められていると

言えるものであり、それは本来の人間らしさをとり戻す新しい人間の再生であり、人間性の再興を目指すものかも知れないと思われるのである。そこで今回は自己実現に的をしばって考えて見ることとする。自己実現の欲求、願望とは、自分の持っている能力を最大限に発揮したいという欲求である。自分の独自性、創造性を発揮したいとか、新しい自分を発見したいという欲求でもあり、又自己を成長させて自己の存在を価値あるものになりたい等という人

間本来の欲求でもあるのである。この自己実現の欲求こそは、人間の持つ数ある欲求の中でも最高の段階の欲求であるということマズローが提唱しているので、その一端を紹介したい。

アブラハム・マズロー(一九〇八～一九七〇)は米国の心理

学者で、世界的に著名な人であるが、その学説の中に欲求五段階説がある。これは日本でも経営管理の小集団活動の理論としても広く紹介され、ご存知の方も多しと思われるのである。

マズローは人間の働く意欲の動機づけに関連して、人間の欲求を研究し、下位から上位まで五段階に分類することが出来るという、いわゆる欲求五段階説(次頁参照)を唱えたのである。これを順に追って略記すると。

(一) 生理的欲求

人間のすべての欲求の中で最も基礎的で強力であり、生命維持に関する欲求である。即ち食物、睡眠、住居、衣服、性への

生理的、肉体的欲求であり、4
存安楽の欲求である。これ等の欲求は満たされない場合は行動に強力な影響があるが、通常のような低次の欲求は充分満たされているもので、即座により高い欲求が現れるのである。

(二) 安全の欲求

危険や脅威から身を守り、合理的にも情緒的にも安全で安定していたいという自己保存の欲求である。仕事や収入の安定とか保障など経済的安定感の欲求もこれである。

(三) 集団帰属と愛情の欲求

生理的欲求と安全の欲求が満たされると集団帰属(社会的欲求)が起るのである。集団に所属したい、集団の中で一体感を持ちたいという欲求。仲間や他人から受け入れられたという欲求。友情や愛情を交換したいという欲求である。愛情とは深く理解され、深く受け入れられることであり、この欠乏は人間にとって塩分欠乏やビタミン欠

乏症と同じように一つの欠乏症
状であると述べている。

(四) 自我の欲求

(一) (三)の基本的欲求が満た
されると次には更に高次の自我
の欲求が出て来る。この欲求は
二種類ある。内面的欲求と外面
的欲求である。内面的欲求は自
尊心とか自信を持ちたいという
欲求。能力を伸ばしたいという
欲求。智識を広げたいという欲
求。目標を達成させたいという
欲求である。

外面的欲求は他者からの承認
の欲求であり、名声、地位に対
する欲求。認められたいという
欲求。正当に評価されたい欲求。
注目され尊敬されたい欲求など
である。この欲求が満たされ充
分な自己承認をもっている人間
はより自信があり、有能で自己
の価値を高めることとなるので
ある。更に審美的欲求や眞・善
への欲求もこの中に入るのであ
る。

一般には(一) (三)の欲求が総て

の人にとって最も重要視される
欲求なのであるが、マズローは
それにとどまらず、自我の欲求
さらに進んで、もう一段上位の
いわば人間の欲求の頂点をなす
自己実現の欲求をあげるのであ
る。

(五) 自己実現の欲求

かくて前述の、人間が自己の
可能性を最大限に実現したいと
いう自己実現の欲求に到るので
ある。この欲求こそが人間の最
高の欲求であり、人々はこの欲
求に向って生涯をかけて、めざ
すに価する目標に向って全能力
を傾けて立ち向うのである。

例えばオリンピックの選手が
「能力の限界への挑戦」という
悲願に燃えて人類の記録に挑み、
芸術家や芸能人が新しい自己の
創造に打ち込み、科学者が新し
い先端技術の研究に没頭するな
どは、この自己実現の欲求実現
への昇華であるのである。

以上マズローの欲求五段階説
について見て来たが、私共はこ

の心理学より見た人間観に深い
感激と共感を憶えるものであり、
またこれは私達に数々の示唆を
与えるものである。

私達は、好ましい方向に自己
の可能性を最大限実現させると
いうことは、人間誰しもが持つ
ている夢であり、自分の一生涯
のひそかな憧れでもある。

この夢や憧れは願望、欲求に
連なり、本来その人の中に心理
的に潜在して持っているもので
ある。そしてその願望に向って
自己の能力の限りを尽して事が
成就したときの喜びは計り知れ
ない無上のものである。これは
即ち人間本来の自己実現の欲求
の達成への満足感から発してい
ることなのである。

この様に見て来ると、自己実
現は生涯学習のキャッチフレー
ズだけではなく、自分自身の中
に本来持ち育てている憧憬であ
り願望であり、欲求そのもので
あるのである。

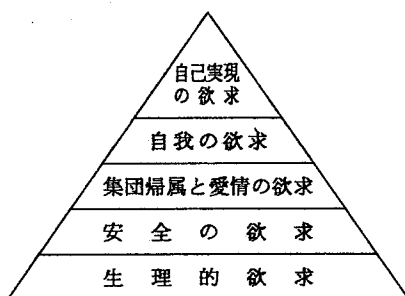
ところでこの欲求を完全に成

就し実現することは中々容易な
ことではない。

マズローは自己実現した人間
を自己実現人と呼び、この人々
は完全な人間性を持ち、あらゆる
徳目や数多くの能力を身につ
け、習練や経験の末の卓越した
人々としている。

私達は及ばず乍らも、このよ
うな自己実現人を心に画きつつ、
志を立て、自分自身の中に潜在
する可能性を引き出し、創造性
豊かな自己実現に向って、一歩
でもそれに近づける努力をする
ことが肝要と思うものである。

マズローの欲求五段階説



公民館行事報告

主事 山下 清 一

宮津市地区対抗 駅伝競走大会

総合三位!

南部コースは、連続優勝

第五回記念、宮津市地区対抗駅伝競走大会が、好天に恵まれた六月六日、日本女子マラソン界の花形、谷川真理選手をお招きし、華やかに挙行されました。

谷川選手をお目当に、大勢の観衆がつめかけ、由良小グラウンドは、早朝から記念大会に相應しいムードで盛り上りました。

南部コース、十二名の選手は、号砲一発、大観衆の拍手の中を、谷川選手を伴走とし、栄光のゴールを目指しグラウンドを後に駆けぬけて行きました。

一区から二区、二区から三区

の走者へと、汗にまみれた一本のタスキが願いをこめて、引き継がれて行きました。

六区岡田、七区新宮選手の力走は目覚ましく、岡田選手の頑張り、南部コース逆転優勝を決定づける快走で、今大会の圧巻となり、唯一、谷川賞の受賞に輝きました。

北部コースでも、由良チームはよく健闘し、昨年の記録を、四分ちかく短縮し、総合三位に押し上げる原動力となりました。

選手団の皆様、誠にご苦労様でした。厳しい練習に耐え抜かれた六名の小学生、三名の中学生の皆様、この貴重な体験を将来大いに活かされるよう、期待して止みません。

大会出場にあたり、温かいご

理解とご協力を下さった選手のご家族の皆様を始め、ご声援下さった地区の皆様には厚くお礼申し上げます。

なおこの際の受賞者は左記の通りです。

谷川賞 岡田多恵子
連続五回出場者
選手 北野 誠治
新宮 鶴雄
磯田 勝美

津田 一
地区代表者 中西 孫兵衛

ソフトボール大会

☆第三回四部対抗女子ソフト

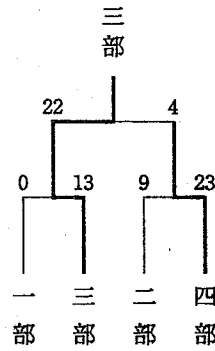
(六月十二日)

強風と砂塵の舞う中での大会となりました。この大会も三回目を迎え、各チーム共中学高校時代の経験者を中心に練習を重ね、チーム力が大幅に向上し、潑刺と、自信に満ちた好プレーが展開されました。

強風の中、ピッチャーが制球に苦しみ各試合とも乱戦となり



ました。熱戦の末、三部チームが試合巧者ぶりを発揮し三連勝を遂げました。三部チーム、捕手の大森選手、ショート田中選手活躍が観衆の目を引きました。選手の皆様は、笑顔で明るく、和やかに試合を楽しみました。



【優勝戦】

四部 4 0 0 0 || 4
三部 13 3 6 X || 22

☆職域団体対抗男子

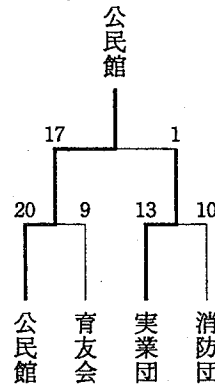
ソフトボール大会

(六月十三日)

前日からの強風と、小雨が時おりぱらつく中で大会が強行され、公民館チームの連勝を阻むのはどのチームかと、興味が持

たれました。

強風の中、乱打戦となり、一時公民館チーム危うし、の場面もありましたが、ピンチをよく凌ぎ強打を連発し連勝記録を更新しました。公民館チーム山田選手の攻守にわたるプレーが印象に残った大会でした。



【優勝戦】

公民館 4 2 0 1 10 || 17
実業団 0 0 0 1 0 || 1

平成五年度

由良地区公民館役員名簿

運営審議会委員

(順不同敬称略)

由良小学校長 飯田 和子
協自治会長 小林 義和

宮本自治会長

市議会議員 中西 孫兵衛

浜野路自治会長 船野 和雄

港自治会長 酒田 治

下石浦自治会長 新宮 義男

上石浦自治会長 山下伊左衛門

市議會議員 山下伊左衛門

前公民館長 小松 忠衛

学識経験者 四方 寿朗

由良小育友会長 森本 松二

栗田中育友会副会長 山元 久紀

婦人会長 中西 巴

老友会長 中西 吉之助

子供会連絡協議会長 山本 良和

役員 山本 良和

公民館長 小室 哲寛

主事 山下 清一

【分館長】

脇分館長 室沢 昭治

宮本分館長 山口 正憲

浜野路分館長 岸田 博司

港分館長 山田 常治

下石浦分館長 野村 正和

上石浦分館長 岸田 秀樹

【幹事】

【文化部】 部長 榊田 益一

副部長 田中 一雄

岸田 正憲 左近 文昭

田原 学 岸田 国彦

中西 夏江 山田 康夫

大森 英正 新宮 鶴雄

山下 浩二 中西 幸子

山田 弘子 濱崎 利雄

【体育部】 部長 山田 忠雄

副部長 山田 美保子

矢野 善紀 小室 秀雄

中西 隆光 山元 久紀

田中 昭彦 森田 耕二

榊田 衛 山下 正貴

中西 巴 山口 朋子

岩上 伸子 岩崎 淑子

中西 瑞絵 山田美恵子

【講師】 山下 欣子

【文化部】 小谷 一郎 中西 俊夫

【体育部】 小室 文雄 北野 薫

岸田 剛 瀬戸野吉也

心の通い合う人づくりをめざして

由良小学校長 飯田和子

「テレビゲームしていた。」

「ごろごろして、テレビばかり見ていました。」

休み明けの、子どもの声である。

由良川、由良岳、由良の海と自然に恵まれた由良地区。ここで育った人には、ごくあたりまえのことと思われるのだろうか。他からみると、これだけ豊かな自然が揃った所は羨ましい限りである。テレビゲームよりも、自然に親しむ生活がしてほしい。

今回、宮津市より『野鳥等観察推進モデル校』として指定を受けたのをきっかけに、ふるさとの自然を愛する心を、これ迄以上に育てていきたいと思っている。

うれしいことに、こんな作文を書いてきた子がいる。

△安寿の里を大切に▽

五年 岸田 康伯

「うーん、なんだろう。」

と考えました。四月三十日、全校なかよし遠足で安寿の里へ行き、ウォークラリーをしました。

「二十問もあるのですが、がんばらんとあかんなあ。」と思えました。

安寿の里は、いい所だなと思いました。まだ作ったばかりなので、人は少ないです。ゴミも少なかったです。だけど、だんだんゴミを出してくるので、きたなくなりません。そんなことを思っていると、安寿の里を、朝石浦の人が掃除をしていることを思い出しました。おばあちゃんも、その中の一人です。掃除をする人は、お年寄りだそうです。朝の八時ごろからやっている。

思いました。

ると、おばあちゃんから聞きました。ゴミを出しても、おばあちゃん達が拾うで、いくらでもゴミをしてもよいと思っている人は、自然を大切にしていなと思います。拾う人は大変です。ゴミを出さない方がよいと思います。

遠足では、お弁当を食べまし

た。弁当の中には、おいしい物があるけど、ゴミになる物もあります。それは、つまようじや銀紙の入れる物です。風で飛んでいったら、ゴミが出ます。自分が出したゴミは、自分で持って帰りました。あめの袋とかはポケットに入れて、ゴミをしな

いようにしました。ゴミをしな

いのなら、人が多くなってもいいと思います。この公園に来た人が、「いいとこや。」と喜んでくれるようになったらいいです。

安寿の里は、高い所なので、由良がよく見わたせて、いいです。由良川は、とても美しいと

公園の中の小鳥の森は、空気がいつもよりおいしいなあと思いました。それから、ぼく達がつけた巣箱に、小鳥が入っているかなあと見ました。だけど入っていませんでした。

「あと三年したら入る。」

と先生から聞きました。ぼくはもともと早く入ったらいいなあと思いました。

ぼくは、夏になったら、ここで絵をかこうと思えました。なぜかという、ここから見た景色は、きれいだからです。

秋になると、公園はともきれいになります。もみじの葉っぱがきれいになるからです。

ぼくは、安寿の里は何回来て

もあきんなあと思いました。こんないい公園が出来てよかったですなあと思いました。こんな公園を計画した人も、満足している

だろうなあと思いました。

それから、おばあちゃんから聞いたことを、今、思い出しま

す。

す。

す。

す。

した。

「便所のかべに、らくがきがある。」

と、言っていました。

せっかく出来たばかりなのに、らくがきする人は、あかんなあと思いました。

この作文を読まれて、皆さんは、ふるさとの自然をこんなに大切に思っている子どもがいることに安心されたことと思う。

ごみを拾って下さる人のことも考えられる優しい気持ちを大切に、のびしてやりたい。よいお手本を示して下さい。石浦のおばあさん達に感謝している。

次に、生活の中で、あたり前として過ごしてきたことを、本当にそれで良いのかと考え、人権尊重の立場から、不合理を是正していく子どもを育てている。次の文は、ある日の教室風景として、学級通信にのった文である。

△教室風景▽

家庭科の勉強で「衣服のしまい方」というのがあります。

だけれど、自分の服をかたづけられているかというところで、

「女の仕事や。」

「そうや、男は働いとる。女は家にいるから、女がしたらええ。」

「おじいちゃんのだって、おばあちゃんがしとる。」

女の子三人が、

「どこで決まってるんですか。」

「おかしい。」

「男だって、一人で暮らす時があるんだから、自分で何でもせな。」

昔からこうしてきたというだけではなく、人を思いやる気持ちを大切にしている。

美しい物を美しいと感じ、相手の立場にたって考え、よりよい生活をめざして身のまわりの出来事にもこだわり、真から心の通い合う人づくりをめざし、小学校では日々がんばっている。

由良幼小PTAについて

森 本 松 二一

子供達の健全育成に関しまして地域の皆様方に御支援、御指導を頂いておりますことを紙面をお借りしてお礼申し上げます。

皆様には、数々の紙面等でご理解頂いております通り、学校での子供達に対する教育方針が前年度より大きく変わってきております。子供の人間形成の場を全て学校に委ねるのではなく、学校はもちろんのこと、家庭、地域が一体となって育成して行こうと言う転換であります。

この様な流れの中で、PTA組織に与えられた役割に重大さを感じますし、又、数々の事象が散見される中で、PTA活動も基本的な部分で見直しが必要になってくるのではないかと感じております。

さて永年親しまれた育友会の名称がPTAと変更されたことについてお知らせします。

育友会と言う組織名は戦後、子供達が平等に教育を受けることが出来るよう、会員相互で財政を援助し合う大きな目的で全国各地に「教師と父母の会」、あるいは育友会と言った名称で発足されましたが近年、子供の教育には、親(P)と教師(T)が連携して係ることの必要が提唱され、全国に普及されるに到っては、名称の統一、整合性の観点から変更が不可欠となったこととで由良地域においても総会を踏まえ、今年度より、由良幼小PTAと改称しました。

今後この名称と共に、新たな教育方針がこの由良の里でしっかり根付くよう、皆様の御理解、御協力をよろしく願います。

PTA活動の中で

山元久紀

今年度、私は栗田中副会長、宮津高監事の要職を勤めさせていただいております。その中で先日開催されました栗中地区懇談会の中で進路指導担当の先生が次の事を話されました。

全国の高校中途退学者のアンケートで、中退理由の上位三項目は、一、高校の中身が十分指導されなかった。二、職業への道の指導が不十分であった。三、志望校への受験が出来なかった、の以上であるとの事。

そこで親の子に対する存在感って何だろうと考えました。今の処その現実には直面した経験の無い者ですが次の様に思います。

果して、子供が多種多様に悩んでいる時にしっかり相談相手になれたのだろうか。子供の身（現在この子にとって何が幸福

への道）になって考える前に親としての見栄、願望が出てしまっているのではないか。親としてしっかり子供の特性を見極める必要がありますが時として盲目的になる傾向にある様です。

時には、第三者として客観的に自分に接する一人の人間として評価すべきでしょう。その上で人生の先輩として相談相手になり、子供がある程度自己の進路について判断結論が出せる参考書になる必要があると思います。

これらの事は、何も中高生に限った事ではなく、極論すればこの世に仲間入りした時から、親子の会話の中でスキンシップを大事にし、一人の人間として尊重すべきでしょう。私も悩みながらも、前述した様な親、人間となるべく努力しようと思います。

子供会活動について

子供会連絡協議会会長 山本良和

五月に行なわれた子供会活動実践交流会に参加するなかで、宮津市の子供会活動の現状について、子供会の組織、子供会予算、子供会の運営の現状について、特に子供達の子供による、子供会でありながらほとんどの子供会が大人依存型である。

行事がマンネリ化し、リクレーション事業が主で文化的事業ボランティア的の事業、社会参加事業などが少ない。

さらには、役員任期は一年であるから、その期間無難にすぎせよという気持ちが強くなる前年と同じ内容で、同じ額の予算で同じ方法で運営する。新しい事業の計画は無理、自分自身のことと精一杯である。

誠に耳のいたい話である。私自身例年の行事をこなすので精

一杯、一つ事が終われば胸をなでおろし、新しい事業の計画などもってのほか、こうなると私のような者が子供会連合の会長をしているという事自体不可解で、会員の方々に申し訳ない思いである。

しかしながら役員は一年で終るが、子供はずっと成長し継続しているわけであり、学校週五日制が発足し、家庭や地域のはたす役割が大きいと言われている今日、子供会がかかえる課題はふくらむ一方である。

子供会でしか体験出来ない行事を、子供達が自分達で活動できる子供会である事が望ましいが、子供会活動の実態として、人数の減少に伴い、子供会活動の活動内容等それぞれに問題をかかえている現状である。

ごあいさつ

由良婦人会長 中西巴

四月より婦人会の大役を預かり、うまく会を運営することが出来るだろうか、不安な気持ち一ぱいでの、スタートでした。

忙しい中にも早や四ヶ月近くなりました。いろいろと行事のある中で、去る六月二十日の婦人のスポーツフェスティバルには、総合優勝と大縄飛びでは、最多賞をいただく二重の喜びを得る事が出来ました。これも若い方のチームワークと熟年パワーの結晶ではなかったかと思えます。選手の方々御苦労様でした。

婦人会とは、生涯教育の中に位置づけられた婦人の学習団体であると教えられました。

地域婦人会だけでなく、市政より、いきいき健康ライフ、婦人大学、あけぼの大学、婦人の船、等々学習する場合は、いろいろ

ろとございます。忙しい中にも、自分に合った学習を一つでも見出し、自分から進んでメリットのある婦人会にさせていただきたいと思えます。

めまぐるしく移り変わる社会で、核家族、高齢化が一段と進む中、個人としてできない事でも、婦人会としての活動の中から、社会に貢献し婦人の力を発揮することに、地域に女性の地位向上を認識してもらえよう努めたいと思えます。

責任と義務が伴う役職でありませんが、私自身それ以上に得るところも大きいと思ひ、まだまだ勉強不足の私ですが、婦人会員の皆様や、地域の皆様に支えられ、この一年間を、自分なりに、頑張りたいと思ひます。何卒よろしくお願いいたします。

フェスティバルにおける女性

それはたくましい雑草

山下 よし子

室内で行なわれるフェスティバルに中止や延期がないのは、
「万が一」が期待できないだけに、たとえ玉入れ一つにしても、引き受ける時に一抹の不安が伴うものである。しかし、紫外線の心配が少ない分、お肌へのプレセントというおまけが付く。昨年までは、市長さんをはじめ来賓の男性が小人数ゆえか小さく見えてお気の毒に思っていたけれど、みやづ女性大学に通い新聞や雑誌で女性問題に関心を深めた今年は、女性男性と拘わること自体、男女差別の意識改革が遅れていると学んだので、参加者の一人としてみる事が出来た。綱引きの結果を見て、その思いは更に強くなり、男性

イコール力仕事または力という図式が変わろうとしていることをしかと自分の目で見とどけた。

この調子で家事の分担等男女平等問題を男性も意識し共に変えることになれば、ここに居る女性も時間的にも、心にも、ゆとりが持てるのになあと強く思った。

さて、競技が二階からは見えにくいということもあり、出番を待つ女性のにぎやかなこと。見渡すと、どこの地区も同じである。大声でしゃべる者、肩をたたき合って笑う者、持参したお菓子や果物を分けあってほおばる人、まさに盛り上がったフェスティバルの雰囲気である。気兼ねのいらぬ仲間の中で、自

分をさらすことが出来るからだろ
ろう、皆生き生きとしている。

こういう場面にもスポーツライ
トが当てられてもいいと私は
思う。ここに来ると、宮津市連
合婦人会の会員として、TPO
によって、色々な人たちと顔見
知りになってるので、空白だっ
た時間を声をかけ合うことで補
えるのもいい。「元氣だった？」
と問うまでもない。カラフルで

若々しい出で立ちとスポーツで
鍛えたうしろ姿が聞くだけヤボ！
と語りかけてくる。五十代の定
年制が取り除かれないう限り、当
然のことであるが、体を動かす
ことで健康管理をしなければな
らない年代の人が、年々少なく
なるのは淋しい。一方で日頃、
切磋琢磨している同年代の潑刺
とした姿を見ることも出来る。
羨ましくなる。何事も続けるこ
とが大切なんだと自分に言い聞
かす。せめて、準備体操や玉入
れに参加して、一挙に足腰を鍛
えようなんて厚かましい願望を

持ったりもする。スポーツに合
わせて考えてみると周りに心と
きめく人はいないし、いつも一
緒の人に対しては無頓着になっ
ていて、美味な物はしっかりと
食べたい。体を動かすのは億劫
と言っては成人病の原因を作っ
ていることに気がつきます。健
康な身体と前向きな精神が揃っ
てはじめて理想の体型という
と書いてある。

再び会場へ。毎回、由良の女
性のパワーには驚かされます。
事前に練習すると聞き又また感
心します。中でも、ジャンプ、
ジャンプの見事な出来栄えは応
援する者にとっても、うれしい
ものです。声を大にして、回数
を数える時の優越感が堪らない。
拍手も惜しみません。この団
結力の強さで、男性を自分たち
の方へ強く引き寄せられないも
のだらうか。まだまだ男性支配
の社会で、女性が選択し活躍出
来る社会の実現のために。
終りはいつも、同じ弁当を食

べて応援に競技にと共に燃えた
充実感を感じます。見る人もす
る人も選手の由良チームでした。

第七回みやづ女性スポーツ フェスティバル'93に参加して

一 婦 人 会 員

人の輪と和の中で育つ自分を発
見する一ときでもありました。

「広げよう女性の輪」を合言
葉に今年も七月二十日に「第七
回みやづ女性スポーツフェステイ
バル'93」が宮津市民体育館に於
いて盛大に開催され、わが由良
ブロックはみごと初優勝の快挙
をなしとげました。

当日は、市内八ブロックの婦
人会約八百人が十一種目の競技
に熱い闘いを繰りひろげました。
中でもジャンプ、ジャンプ、
ジャンプ、これは十三人が揃っ
て飛ぶ大縄とびのこと、大縄
とびは、由良ブロックといわれ
る以上、どこのブロックにも負
けられません。「いくで、そー

れ一、二、三、……」選手の
生懸命な様子に応援席の皆も立
ち上り手拍子をとりにながら大
で一緒に数をかぞえその声援に
応えるように最高二十九回も頑
張って飛んでくれ得点は二十点
満点と第一位に輝きました。ま
さに選手と応援が一体となった
チームワークの勝利でした。

今回新種目の「はさんでおくっ
て」は二人一組でビーチボール
を竹の棒にはさみリレーをする
のですがこれもまたチームワー
クのよきで高得点をあげること
ができました。最後の得点競技
「わたしたち五百歳」の始まる

ころには「これが何位になって
も優勝やで」の聲が飛びかうよ
うになりました。怪我もなく一
日を楽しく有意義に過ごして頂
きました。

各種行事に参加することに依

宮津市地区対抗駅伝

南部コース優勝のテープ

中西 慶子

今年も地区対抗駅伝大会に参
加させて頂きました。健康の為
にと一人で好きな時に、体調に
合わせて運動ができるジョギン
グを始めたのがきっかけになり
ました。

この駅伝は小学生から社会人
までの選手が一つのタスキを継
ぎゴールを目指すのですが、
既に決まっている事とは言え、
社会人女子がアンカーを務める
という事は荷が重いものでした。
チームの仲間が練習に汗を流し

り交流と親睦が深まり、大きな
和が出来ることなど多くのこと
を学びました。

役員の皆様、参加された会員
の皆様、本当にご苦労様でした。

体調を整えて挑んだ大会で、私
の力が遠く及ばなかったら……
と毎日の練習の中でも常に不安
でした。特に今年は、何もわか
らず唯々走った昨年とは違い、
タスキを継ぐ事の重さや、由良
チームの活躍に対する期待の重
さを身をもって経験していただ
けにその不安も大変なものとし
た。

大会当日は、役員をはじめ、
沢山の人の力添えのおかげで無
事走りきる事ができました。ど

の区間の人も同じと思いますが、
中継地点や、走っている時に、
「がんばれよ」と声をかけて頂
く事程心強いものはありません。
私はたった一・九kmの距離でし
たが、「後のチームはどこだろ
う」「あーもう歩きたい」「ダ
メダメ歩くのはダメ」と自分自
身の中で戦っている時に、知り
合いの方々から応援して頂くと
ぐっとゴールに近づく様な気が
して……、温かい声援に重い背
中をぐいぐいと押ししてもらった
ような気がします。

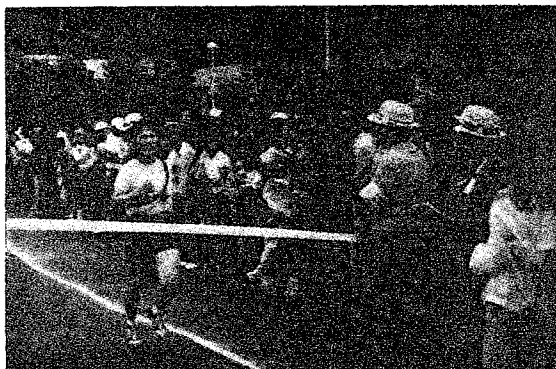
私はこの大会に参加すること
によって、「ゴールテープを切る
という、一生の中で一度味わ
えるかどうかかわからない感激」
を体験させて頂いた事に心から
感謝しています。

ゴールした時の仲間のうれし
そうな、ホッとしたりような笑顔
は忘れることができません。こ
の時ばかりは、「走っていて良
かった。この次はもっと頑張ろ
う」と心新たにすることができ

ました。

この感激をいつまでも忘れず、
これからの人生に役立てて行け
たら……と思っていますが、と
もするといつの間にか、「あー
やっぱり楽しく、楽に走るのが
一番！」と現状に甘んじてしま
う情けない私の心の励みとした
いものと念じております。

最後になりましたが、関係者
の皆様お世話になりましたがとう
ございました。



谷川真理さんからの贈りもの

中二岡 田 多恵子

その日は谷川さんと中島コーチが官津にきていたのでとって、あんなすごい物をもらせることなんて、夢にも、思いませんでした。

中継点でドキドキしながら待っていました。役員の方が一着で走って来た選手の地区の名前をよばれた時、由良は、何位かなと心配していました。由良がきた時、一位の地区からすでに約二、三百メートルはなれていました。はつきりいってぬく自信は、ありませんでした。でも道に出て応援してくれる人がいたから最後まで、がんばれたのだと思います。そして前の人をぬかし一位になった時は、すごくうれしかったです。走り終った

時、とっても気持ちのよい風をかんじました。市民体育館に行つて友達が、私のタイムを見て「多恵ちゃん区間一位やで」と、知らせてもらいました。私は、とびはねるぐらいうれしかったです。

表彰式の時、区間賞は由良で一人だったからよろこんでいたら、時間の関係で省略と言われ、ものすごくショックをうけていました。そんな時、谷川さんがマイクで、谷川賞の話をされ、「岡田多恵子さん」

と呼ばれた時、ドキッとしました。すごくびっくりしてました。それに、こんな大きな体育館でこんな大きな賞をもらえるなんて、夢のようでした。夢のような気持ちで、壇の上にあがり、賞をもらって、席についてから

も、ドキドキしてました。それに、谷川さんは私に、私の名前入りのサインをくれました。

その日一日は私にとつて、最高の日でした。本当に最後までがんばってよかったと、つくづく思っています。

二回目の地区駅伝

六年 野 間 英 実



五月の上旬ごろから私は、毎晩七時になると出かけています。今年も、駅伝大会がせまっ「今日、小学生は二キロジョギング。」

初めのころは、タイムを計っていたけれど、かぜとか足がいたいとかで休む人が半分くらいでした。

今年も、担任の先生や、由良に下宿している先生も出るというので、昨年よりずっとはりきっていました。

ところが、かぜをひいてしまった、何日か休んでいました。

そのうち、駅伝大会が明日にせまってきて、私はドキドキしました。

次の日、八時ごろに由良の里センターに行くと、ほとんどの人が集まっていました。

開会式もすんで、三区の場所へ行きました。

「もうすぐ、くるで。」

ほけつの人が時計を見て言いました。昨年、同じコースを走ったとはいえ、ドキドキでむねがはれつしそうでした。

「由良。」

役員の人が出たので、いそいで道路に出ました。タスキを

四番でもらって、走っていたら、

「おい野間おそいぞ。」

中学の人が道路わきで言っていました。

「英実ちゃんがんばって。」

二、三、四年と担任してもらった先生が家の前で、おうえんしてくださいました。

でも、だんだんえらくなってきたので、もうだめと思いましたが、それでも、奈具の海岸を走った人は、もつとえらいんだと思つてがんばりました。

信号きの手前で、ラストスパートをかけ全力で走っていたら前に二人重なっていたので、ぬいちゃえと思つてぬいたら、後ろにびたつとくっついてきたのでひゃつとしました。

次の選手が目の前でまっていたので、タスキを取って渡しました。

今年も、区間新記録はとれなかったけど、思いっきり走れて、とても良かったです。

地区駅伝

六年 松岡 和一朗

「今日は、小学生二キロジョギング。」

と、言われて駅伝の練習をしました。練習をしている時、足がいたい時もありました。僕は、先生を見て、「よくあんなに速く走れるなあ。」と思いました。

そして、練習していると、駅伝競争大会の日が来ました。

一区の人達は、開会式には、出れませんでした。

一区、二区、三区と、どんどん八区に近づいてきました。そして、八区の番になりました。

しんぐうさんからたすきをわたしてもらって、走りました。

一番に走ると、なぜか、初めから、とばしてしまいました。

僕は、初めて、白バイの後ろについて走りました。

白バイは、走っている人の事を考えて、スピードをおとしたら、おとしてくれました。

八区の最後のほうで、ラストスパートをかけたけど、なかなかスピードが出ませんでした。そして、九区の人にタスキをわたしたらそこで、ジュースをもらいました。僕の後の人とは、

二、三分間があいていました。結果は南部優勝、総合三位でした。白バイの後ろで、走れるとは、思つてなかったし、いい思い出になりました。



地区駅伝

五年 田中 清 貴

ソフトボール大会

浜崎 利雄

いよいよ駅伝大会の日が来ました。ぼくは朝早く起きて由良の里センターに、八時に行きました。公民館長さんや中西まこべえさんにいろいろ話を聞いてから、いそだのおっちゃんに「アップはしっかりしときな。」

とか、いろいろ言うてもらいました。「九時ごろからグラウンドに出な」と言われたので、りゅう一君と九時になるまで家にいました。九時になったのでグラウンドにでたらまだだれもいませんでした。

「はやいかな。」

とか

「しーんとしとるな。」

とか、しゃべっていました。アップもちよっとずつしました。走っていると、人が次々にきて少しくさんちようしたけど、あまりき

んちようせずにいました。いっしょに走る選手もきてすくくにごやかになってきました。

体操もして、また、アップをしました。由良の人も集まって谷川選手もきてほんとににぎやかでした。そして時間がきました。どきどきしとったけどがまんしていました。アドバイスもつけてスタートラインについてパンとピストルの音でスタートしました。おうえんもされました。いわれたとおりに走りました。ペースをつかみました。そして走っていききました。あとのほうからあがってきて、ラストでした。二人ぬいて四位でした。もうえらかったです。ホッとしました。いいけいけんでした。役目がはたせてよかったです。

去る六月十二日、十三日の両夜曇空のもとナイターで行われたソフトボール大会でした。

試合をするにあたってどこの地区、団体とも人数集めに四苦八苦のようでした。早く人数集めのできたチームは早速練習を行い、遅れたチームは当日ぶつけ本番で試合に臨んだことでした。梅雨の時期なので雨が心配でしたが、何とか両日も、降らずにもってくれました。

十二日女子の大会は、雨の前の強風が吹き荒れる中の試合開始でした。

チームの中には一度もボールにさわったことのない人がいるとの話でどんな試合になるのかなと見ていましたが、どの試合もなかなかの好試合で、時折舞う砂ぼりも何のそのといった

感じで奮闘しました。

二日目の十三日は男子の試合でした。強風の前日とは違い今度は雨が心配の運営となり、準備の段階で降るところまでやろうという事でプレーボールになりました。

男子は女子と違いボールを持つたことがないという人はまずいないようで、女子のときよりハラ、ハラドキドキの緊張感は少なく安定感のある守備で、熱戦が展開されました。

心配していた雨もなんとか決勝戦までもってくれて二日間の、好プレーや珍プレー? の試合が、男女共無事終了しました。人数集めに苦労したので来年は何か違った競技がしてみたいといった意見が女子の一部からあがっていたので、体育部の方で

も又、検討して行きたいと思
います。関係者の皆様、本
当に二

日間ご苦勞様でした。

四部対抗

女子ソフトボールに参加して

玉垣 知子

六月十二日、四部対抗女子のソフトボール大会は、時に砂ほこりのたつ中ではあったが、無事行うことが出来た。

昨年、私は初めて参加させていただき、「あそびのつもりで頑張ろう……」と、チームの人と言っていたものの、いざ試合が始まると、目の色をかえ、燃えてしまい、エラーをする度に、「ああこんなことなら練習をしっかりとっておけば良かったなあ」とさえ思いました。幸い三部は優勝し、満足感を味わうことは出来ましたが……。

そして今年。昨年の感動をもう一度と思い、喜んで参加させ

ていただきました。大会まで
他チームの協力でグラウンドでの
ナイター練習を行い、アレコレ
と、ソフトボールのルールなど、
の疑問点などを話し合いながら
の充実した練習でした。

そして当日……。練習で存分に体を動かした筋肉痛を感じながらも、試合となるとやはりみんな意欲満々。やつぱり目指すは優勝です。

打って、走ってハアハアいいながら、練習の成果を充分生かし、今年も見事優勝することができました。

日頃、車で通勤の毎日のせいか、めったに顔を合わす機会の

ない方々と、いい汗をかきな
がら、話すことができ、い
いムードで試合に挑め、たのしい時間を
過ごすことができ、本当によ
かったです。



父母の思い出

谷 村 稔

人の頭の中味は、どんなになっ

ているのだろうか。時々刻々流れていく出来事の記憶。新しく取り入れた知恵。そんなものが、どんどん入って行き、知恵袋は思い切りふくれ上り、パンクしてしまわないうちに、不要なもの、どんどん消え去っていくような気がしてならない。しかし、中には、五十年も経過しても、未だに鮮明に記憶がよみがえってくるものも、いくつかはある。

私の記憶で一番古いものは、三才〜四才の或る日の出来ごとである。

私の実父母は、今の宮津市由良港に本拠をおく、小さな砂利船の船方さんだった。当時両親は由良川筋で砂利や浜砂を、船

に岬を超えて蒲入、浜詰等へ運搬する荒仕事に従事していた。

今は亡き父は、祖父と共に、帆かけ舟の時から、当時の高等小学一年（現中一）の時分から苦勞をしてきたらしい。丹後半島の沖合で難破し、舟を沈めて、命からがら岸に泳ぎついたことも、二度はあったと話していた。学校を長期間休んで、久し振りに登校したら、もう自分の机は無く口惜しい思いでそのまま中途退学をせざるを得なかったうである。それでも、何かにつけて立派な父だった。

私の生まれた頃には、それも機械船（新鋭の焼玉エンジン）になっていたが、いづれにしても、舟底一枚下は地獄といわれる命がけの荒稼業であった。

おまけに労働もきつかった。

砂利は機械で運んだものの、砂の積み込みや、砂利、砂の陸揚げは、ベルトコンベヤーなんて勿論なく、天秤で二つのさらかご（モッコ）に、体力の限界まで荷を積みこみ、肩一つの力で陸へかつぎ上げるのだった。

私も小学三年〜四年の頃から、一労働力として、学校の放課後或は夏休み中、月曜日等は大抵家業に駆り出されたものだった。

スコップ或はじょうれんという道具を使って、さらかごに砂利や砂を盛るのだったが、幼き細腕ではままならず、しんどくて脂汗のたらたら流れるのを我慢し、手伝いしたことは、日常茶飯事の日課であった。真剣に働いたあとの、梅干しや、沢庵塩鮭だけの昼御飯が今のどんな御馳走よりもおいしかったこと。夏であれば、船からとびこんできれいな丹後の海で泳いだこと。帰港の途中、伝馬船を漕ぎ出して、岩場で、ワカメや磯のり、

藻魚、さざえ、いがい等を籠一杯とって帰ったことも、なつかしい思い出として、よみがえってくる。

話を返して、四才の頃の出来ごとに入ろう。今なら強風波浪警報下のことだったろうか。無理をして、由良港（由良川河口）を船出し、舞鶴へ向かう途中のことである。

砂利を満載していたため、喫水線の下っていた船（第二幸福丸といった）は、高浪をまともに受けて、甲板より機関室に浸水し、エンジンは止まり、正に氣息奄奄、瀕死の状態となっていました。そのままでは、沈没遭難の危険も大であったため、父は同乗の叔父と二人で、スコップで必死に積荷の砂利を海中に放っていた。その間にも、荒波は、小さな船を木の葉のように翻弄し、波しぶきはどんどん舞り上っていた。

その間私はただただおそろしくて、キャビンで母の袖にすが

りつき、泣きじゃくっていた。母の背には、生まれたての四つ下の弟が背負われていた。母は母で一生懸命祝詞をあげ、神に加護を祈っていた。恐らく、母も自然の猛威の中での人間の無力を痛感していたに違いない。悪戦苦闘数時間（事実はさだかでないが、ずい分長時間だったような気がする）同僚の空船（奈賀丸）が、由良港より救助に来てくれ、ロープにて、嘘のように静かな西舞鶴の港に曳行してくれ、船も人も、やっと命をとりとめた。

昔の父や母は、このように、体をはって、命をはって、生活もし、子も育ててくれた。又子の方でも、体でそれが理解できた。その父は、すでに二十年余り前に逝き、叔父も今は亡い。母は今年米寿を迎えなお健在である。

近頃よく親子の断絶が叫ばれる世の中が移り、時代が変れどもやはり親の生活、子育ては真

剣である。自らが、人のおやとなり自分の子を育てて、初めて親の有難さ、苦勞が解ってくるものだ。因果応報というが、因果は巡り、今親に心配をかけているものは、必ず自分の子に苦勞させられると思うことだ。

ふっと別の角度から、自らを見つめなおし、両親の立場、言い分を理解しなおせば、今の自分が恥ずかしくなることが多いに違いない。人の進歩成長は、そのような節目節目から発展してくるのではなからうか。

★この文は、老友会平間克己氏の推薦により「老人は斯く戦えり」の続編として投稿されたものであります。



川柳

宮津番傘川柳会

古傷を隠す大きな手に出逢う

引き合わぬ汗も惜しまぬ父の鍬

大森 美智子

白い画布羽ばたく孫の未来像

今ここに今日在ることを感謝する

田村 キヌエ

恩を売る傘のしずくが重くなる

遠花火飛べぬ風船膨らまず

飯沢 鳴窓

梅雨晴

大森 万喜子

栗の花いつしか過ぎてきみどりの毬となりゆく刺やわらかし

山野辺にどくだみの白き花群れていきいきと匂うを今刈らむとす

梅雨晴に野良着を干せば手にふれてぬす人萩の種のかたさよ

雨の中を新聞配達の子学生笑顔で今朝も挨拶しゆく

香たきて硯清めて書いてゆくわがひとときを「道」という文字

新しき筆をおろして「道」という一字に心をこめて書きゆく

古稀近く趣味に生きゆく独り居の吾を支えくれる友に感謝す

やわらかに陰干ししたる青紫蘇を切りて安眠の枕となせり

朝々を日課となしてわが畑の野菜見にゆく露ふみながら

黒豆の移植を終えて梅雨晴をひとり一夜の旅に出でゆく

健康いろはカルタ 24

四方 寿朗

ん 運は天にあり

寿命や健康は各人の持つて生れた素質×環境によって決まる。環境即ち生活の仕方で大切なのは栄養・運動・休養の三者が其

の人の生活にうまく適合し、調和がとれている事である。例えば

ば仕事で体を使う人の休養はゴロ寝でよいが、事務職の人の日曜日は戸外に出て体を動かすことだ。しかし、いくら用心しても

もどうにもならぬ事故がある。又、運が悪いとしか言いようのない病気もある。丈夫な人は自

分一人の力で生きて来たように考え勝ちだが、実は我々はたくさんの人々、多くの動物や植物、

天の恵みのお蔭で生かされているのだ。人は必ず何時かは死ぬ。

いくら思い悩んでも、どうにもならぬ事は、さっぱりと忘れて、

たとえ明日死んでも悔いの無いような一日一日が送れたら、私は人生最高の幸せだと考える。自分なりに精一杯努力の後、運は天にあり。(終)

あとがき

昭和六十年六月の六十六号から丸八年間、二十五回にわたった私の拙文を今回で終ります。永い間貴重な紙面を与えて下さった公民館に厚く御礼申し上げます。

健康いろはカルタは最初に申しました通り、綾部の大槻順市氏の作を多く無断借用したこと、又、先原稿を確かめずに、その時々思いつくまま筆を走らせたので、同じ事の繰り返しが多々あることと、深くお詫びいたします。永い間本当に有難うございました。(平成五年七月十八日)

文学の見える風景(一)

由良の戸

中西夏江

今回、公民館長さんから「郷土の文学紹介」の依頼をうけました。以前「由良の歴史・一号」で「由良の文学散歩」と題して書きましたので、なるべく重複しないよう参考資料を紹介しながら書かせて頂くと思えます。お気付きの点を教示願えれば幸いです。

由良の戸

「由良の戸」は数多い名所歌枕の一つで、角川古語辞典には、次のように記されています。

ゆらのと「由良門」丹後 京都府宮津市。粟田湾に面する由良川の河口付近の海。主材は舟。新古今初出。「由良の門を渡る舟人楫を絶え行方も知らぬ恋の道かな」〔新

古今・恋一・一〇七五〕

また、同書日本史年表の中に、九八五年「このころのすぐれた歌人に曾根好忠がいた。家集を曾丹集という。」

と小倉百人一首「由良の戸」の作者を記載しています。私達が親しんできた百人一首について丸谷才一氏は、

王朝歌学の総決算として、あるいは風景美の味わい方を学び、あるいは恋の情趣の型を教わるのである。

と述べ、井上宗雄氏は「由良」の異説について
○万葉集や鎌倉初期の歌学書では紀州が詠まれている。
○紀州の由良があまり詠まれない平安中期には、好忠の

体験にとつて印象深いと思われる丹後の由良とみる方がよいであろう。

との見解、また歌人の宮柵二氏は次のように述べ、

作者が丹後掾であったことから、丹後の由良川だとは、

契沖（江戸時代の国学者・歌人）の説であるが、どちらとも決めがたい。

歴史家の中嶋利雄先生は、

「どちらか分らない。が、何よりも、その土地に住んでいる人の思いが一番大切なのです。」

とおっしゃっています。その土地に住む人の思いが一番大切——の心を私達はしっかり持ち続けることが肝要なのだと思っています。

遠い昔、凡海郷由良庄といわれた由良の名（加佐郡誌）をやさしみながら視点を由良の戸、その河口に移したいと思えます。由良河口は、その形が幾度變遷を繰り返して来たとしても、大

自然が何万年もかかって築いた絶妙ともいべき光景の一つだった筈ですし、水墨画のように日本人の心の故郷として流れ続ける川への親しみやいつくしみ、そして諸々の感情を惜しみなく与えてくれた見事な舞台でもあったと思われまふ。

○由良の戸を渡る舟人かじを絶え行方も知らぬ恋の道かなと詠んだ曾根好忠の一首は、この由良に住む私達の心の代弁であるのかも分かりません。名歌

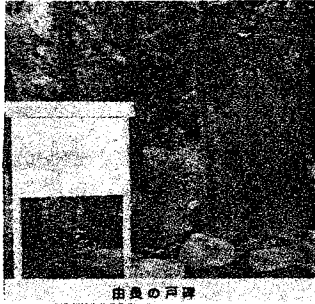


明治時代の小倉百人一首

はその土地の人々に限らない愛情をそそぐと同時に、自然のロマンをも醸し出してくれます。名歌を敬愛するゆえんでもありましようか。

ともあれ、千年もの昔に詠まれた名歌が江戸時代から愛され今日に至っていますが、大正時代の石浦では、読み札・取り札共に変体仮名の百人一首でかるたとりが盛んに行なわれたそうです。それは亡母が八十余年前に嫁入りの際持って来たもので今も残っていますが、もっと古いかるたがこの由良にあるのではないかとも思っています。

現在、由良小学校では祖父母学級が設けられ、その中で百人



由良の戸

一首のかるたとりが行われています。「由良の戸を」の一首は、きつと子供さん達の記憶に残ることでしょう。やがて成人された時、実景にふさわしい調べを備えた平安時代の和歌として、また郷土の歌として愛誦してほしいと希っています。

脇の稻荷神社の境内に

○由良の戸に梶を絶しは昔にて安らに渡る今日の楽しきと

と詠まれた由良の戸碑があります。作者は賀茂季鷹(一七五二—一八四一・上賀茂神社の神官)で、天保十二年(一八四一年)に田辺藩主牧野節成の建立です。

宮城益雄氏(宮津地方の文化遺産を守る会)は、「文学碑めぐり」の中で次のようにこの碑文の解説をされています。

『ある年、若狭の小浜に旅をしての帰路、天橋立を見ようと丹後の由良の戸を舟で渡ったところ、景色が大変良かったので、

曾根好忠の歌を思い出して、由良の戸に梶を絶しは昔にて安らに渡る今日の楽しきと、口ずさんだ。これをこの土地の藩公(当時の田辺藩主)がお聞きになって、碑に残しておきたいとの思召しを頂いた。紀伊の国にも同名の港があることから、

どちらが本当の由良の戸かと迷う人の為に、かの好忠は此の国の掾(国府の役人の一)を務めて、曾丹後と呼ばれたと古書にも出ているので、此処で詠んだのであろうとの考えを、紙を伸べ老筆を取って書き付ける次第である。あなかしこ。あなかしこ。

天保六年五月十三日 八十三隻 正四位下 賀茂泉主季鷹

岩滝の歌人で高岡福麿という人が、賀茂季鷹の門人で、季鷹を天橋立、由良に遊ぶよう招請したといわれていることが中西茂氏の記録に残されています。

○由良の門はけふ漕ぎはてつ明日

しらぬ身はうき舟の浪枕して 作者荷田春満(一六六九—七三六)は、江戸中期の歌人、国学者です。曾根好忠の「由良の門を」の歌の本歌取りで、旅愁の漂う一首となっています。

季節の訪れや「もののあわれ」を表現し、時に昂る感動を、時に寂しい華やきを添えた和歌は、水辺にあつて微妙な輝きと陰翳を深め、詩情や旅情、そしてまた敵しい生をもうたいあげて来ました。

歌人達の心に生き続けた由良の戸は、単に愛や恋といった類のものだけでなく、今、自分ないものを求めたり、古代へ憧れたりする現代の私達へのメモリアルなのかも知れません。

川の汚染が叫ばれ、コンクリートの堤防がつけられ、自然景観の保全がおぼつかない現在、せめて私達は自然への感謝の念をもち、これ以上汚さない努力をしたいものだと思わずにはいられません。

宮津市公民館対抗

囲碁大会について

渡 辺 嘉三郎

六月二十日(日)第十四回公民館対抗囲碁大会が由良の里センターで開催されました。会場は各公民館廻り持ちで今年は由良の当番であり役員各位のお世話により実施されました。一チーム五名各地区代表四十五名が参加して一日楽しく過ごさせていただきました。由良はA、B二チーム参加、その内Bチームが念願の優勝を果したのであります。

メンバーは(敬称略)

【Aチーム】石井久由、岸田勇、今西秀夫、谷口宥全、山下栄一
【Bチーム】熊田良雄、中西國雄、竹村寛三、高崎剛、渡辺嘉三郎
午前中に二番午后三番、始めは相手構わず打って三番目以降はそれまで全勝した人同士で対

局すると云う審判長の説明で始まった。試合は一進一退、どのチームが抜けたるか判断出来ない緊迫したものでした。

手前味噌になって恐縮ですが私は当日勝運に恵まれたと云うか緒戦に昨年苦杯を嘗めた栗田の市田さんに僅差で勝ち、以下森岡さん藤原さんと順調に勝ちを納め、遂に全勝同志の対決となったのであります。相手は栗田の狩野さんと云って木崎さんの話によると地元でも特別頭角を現して来たホープであるとか、口で驚かされこれまでかと覚悟していた処、実戦では隅の折衝で私の方が競り勝ち大石を仕留めて中押し勝ちとなりました。最後に宮津中央の安井さんと



全勝を争い、これにも三目残して、私としては出来過ぎの一日でした。少しでも日頃の練習の成果が現れた結果かと喜んでおります。

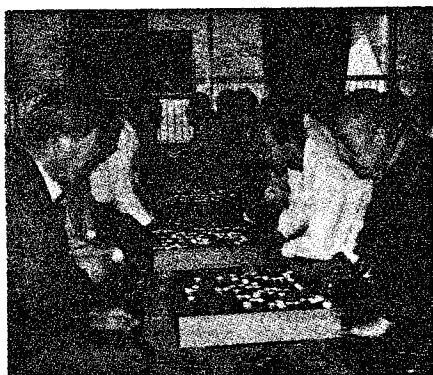
由良は古くから囲碁同好会が結成され現在由良の里センターの生涯学習教室で毎月日曜日の午後二回例会が行われています。又その他新春大会、農協支所対抗戦、栗田との親睦囲碁大会、花見碁会、さなばり碁会等年間を通じて数多くの催しを計画されております。

囲碁は今や世界中の人に愛好されている精神の柔軟性を養い人生を豊かにするゲームであり盤上で相手と対話ができる趣味としては最高のものであると信じております。

ハンディ制になっておりますので初心者の方でも対等に対局できる良さがありませんから同好会の会員に御加入されこの素晴らしく楽しい趣味をお持ちになることをお勧めいたします。

【申込場所】

囲碁同好会会長 石井 久由
(電話 二六一〇九四〇)



夏の防犯について

由良駐在所 坂本 誠史

一、はじめに

「日本は世界の中で最もセキユリティーが良い国である。」これは、最近私が読んだ本の中にあった最も印象に残った部分です。

この「セキユリティー」と言う言葉、よく耳にする言葉ですが、なかなか説明しにくい言葉ではないかと思えます。

この「セキユリティー」と言う言葉の中には、

- ・ 安全保障
- ・ 戸締り
- ・ 防犯（防犯設備）

などの意味があるようで、このような意味から、安心感をも表す言葉のようで、日本は安心してくつろげる国である証明ではないでしょうか。

夏になれば、解放感を求め、

多くの人が海や山に繰り出します。由良地区にも多くの人が訪れ、静かな由良地区が一変して賑やかになり、犯罪が増えるのもこの時期です。全ての犯罪をなくし、より良いセキユリティーを確立するため、皆さんと共に頑張っ行ってきたいと思っております。

二、夏の犯罪と少年非行防止

京都府警では、夏の犯罪を防止するため、「気を付けよう 甘い言葉と 暗い道」をキャッチフレーズに七月二十一日から八月三十一日まで夏の防犯活動を展開します。

- (一) 性犯、ひったくりなどの

夏の季節犯罪の予防

ア 女性の一人歩きは危険

です。暗がりや人通りの少ない場所での一人歩きはさげましょう。

イ 甘い誘いは、きっぱりと断りましょう。

ウ 夜間は、水着などを、できるだけ屋内に干すように心がけて下さい。

(二) 少年の非行防止

ア 外出時は、行先や帰宅時間をちゃんと聞いてあげて下さい。

イ 生活のリズムが崩れないよう、予定を立てさせて実行させて下さい。

ウ 子供の持ち物や服装、友人などに関心を持ち、変化がないか注意深く見守ってあげて下さい。

三、空巣の防止

昨年、この時期に、何件かの空き巣被害がありました。犯人は、泥棒にはいる下見をし、はいたりやすい家にはいるようです。

まず皆さんの力で泥棒が嫌がる家にして下さい。

(一) 「少しの時間なら大丈夫だろう。」というような、考えは捨てて下さい。泥棒には十分な時間です。

(二) 戸締りは確実にして下さい。玄関だけでなく、裏口や窓も確実に。

(三) お隣りに一声かけるのもお忘れなく。

四、おわりに

昨年、由良駅からの乗り捨てと思われる自転車の盗難が多くありました。鍵のかけ忘れなど少しの気の緩みから盗難にあっていきます。防犯にやり過ぎはないと思えます。みなさんの、ちょっとした気の緩みを狙う犯罪をみなさんの力で防止し、よりよい由良地区にしていこうではありませんか。

郷土に於ける澤井市造話題(五)

作 中西 孫兵衛(先々代)

由良の歴史をさぐる会 四方 寿 朗

然るに今日當席上で御顔を拝するに私が御託する義務を負ふて居ると思ふ御方の顔は渺ないと思ふにつれ轉た今昔の感を切に致します自分が大人となると同時に御逝去なされた御方やら御隠居なされた人やらを思へば歲月は実に流るゝが如く過る月日に関守なく有為転変は迅速無常のものであるを感じますと同時に斯く感じます私も亦それたけの年を取るに相違なく借いつも忘れませぬ人は本日も主人公側となつて居らるゝ長左衛門裏の六右エ門の熊孫兵衛乃善利七の市(以上いづれも幼名を呼ひたるもの)此人達も今郷里に帰りて見れば或は中西長左

衛門とか中西六右衛門とか中西孫兵衛とか三森西之上などいづれも堂々たる名前に替り一家の主掌となり一村の主腦たる地位に立ちて名声隆々たる人々となつて居らるゝが私に此時旅稼ぎに出で居る間も常に一の理想を抱き浪人者ともいつか名乗りを挙げたきものをとの一心は絶えないが未だ私の前途は暗重遠遠であつて何れに拠るべきか今に於光明を認むる事が出来ないのである然れども郷里は矢張恋しきもので皆さまの無事な御顔を見たり無邪気な御話を聞いたり致しますのは言ひ知らぬ一種の快感を生ずるもので此村(帰りますと何となく子供

の時御宮やら御寺へ詣る時の心持が致しまして幼い幼いしき晴々とした気が致すので御座います自分は不審に思ひ自然に右様の感じになるのは何故ならんかと自問自答する事もあります夫れで私の思ひますに是蓋し天然に備はりたる情理かと思ふので天地の間に生きとし生けるものは皆に人ばかりでなく何物にても愛郷の念は同じ事であるを思ふ私には今は親もなければ兄弟もなし(此語最も力を籠められ悲哀の感を含む)遠く昔に死なれた親兄弟でも恋しくてなりませぬ此度帰郷致しましたのも親の年忌に當りましたので展墓の爲めてあります郷土の恩は親と同じで一草一木も皆な我の友である土地ありて父母あり父母ありて初めて我の生ぜしといふ順序ですから其根元たる郷土を恋して思ふのは敢て不審でないと思ひ言致します況んや今日の如き

斯くも盛大なる宴を催ふされ浮浪の身を招待さるゝに至つては一に郷里の深刻なる愛情より起りし事と確信致しますると同時に私一身に取りまして非常なる光榮を得ました事と永遠に感銘致します終に臨めて御里の隆盛を祈り諸君の健康を祝す

(其三)

明治三十二年九月字松下に式三上流の人々より同字屋臺地車之天幕見送の寄附を頼み出でしに市造君は快諾はすべきも此の如きは一人専有にすべき事柄ならず字公共の事なれば僅少づゝなりとも出し合ふといふにあらねば穩ならず先づ三森田中と本家三人にて割は如何にすとも三拾円を負担し貳拾円は惣分に出金させ都合五拾円持来れ残金は及ばずながら我一已にて引受くべしとの事にて陰曆八月六日に割合出金して市造君に渡したり市造君の出金果して幾何なりしかを詳にせず右の三人は所謂數を

衝て蛇を出せりとは此事ならん
と笑はれたといふことであつた

(其四)

茲に氣の毒なりしは森本仙太郎
氏なり明治三十二年八月に北海
道利尻廻漕問屋の客室に於て病
中貳千五百八拾余円の盜難に罹
りたり此金は岩滝村糸井勘助氏
持船の船長を勤め同地へ海産物
買込みに廻船したる時にして金
庫として支那革袋に入れ置きた
る主家の資本金并に自身の資金
共悉皆賊難に罹りたるものなり
同氏は警察署へ届出警察も力を
尽して百方搜索されしも毫も手
懸りを得ず僅に其容器のみ海岸
に捨てあるを尋ね出したるのみ
楮此件に付素より主家へ対して
は責任を免るゝ能はず去りとて
弁償する迄の資力とてなし主家
に於ては斟酌免除の申渡もなく
親類も度々謝罪に出でたりとい
へ只何分にも何分にもといふよ
り外はなし之に反して主人より
は一に責任問題のみを主張して
其権幕當るべからず是に於て市

造君は蹶起して己が一番挨拶に
飛び込み是が非でも論破して解
決をすることに着手しやるかと
云はれたが私はそれは恐らく不可
ならん考ふるに勿論責任といひ
義務といひ森本にあり只此際妥
協を乞ひ義務の解除を得んか否
やに帰着すべし市造君の如き向
ふ所敵なきてふ豪放的なる人に
談ぜしめば頭から權利て庄せら
るゝ暁には其場にて權利者と義
務者との争論を懸起すに止まり
円満に局を結ばんは望むべから
ず」と露骨に卑見を述べければ
君も亦た「それもそうじゃな」と
得心され傍觀の地位に立つに
決したり市造君は出立引違ひに
仙太郎氏帰国され仙太郎氏は兎
も角も主家の手前安閑としても
居られず動不動産の家資を売却
ひ閉門して主人よりの命あるま
で謹慎すべきや否の相談を私が
受けました私は一応沢井君に相
談の上処置すべき旨を告げ早速
手紙を認め送りしが其返答には
一物も賣る事は止めさせ其儘成

行を詠め主家との解決した上臨
機に依りて処理するこそよかるべ
し其際には重ねて相談ありたし
と其後仙太郎は直接に主人に願
ひ出て何人にも煩ひを懸けず左
の通解決を告げたり
利尻の賊難は加害者発見せば
其時仙太郎の義務は盡きたる
事に認むべし
加害者判明するまでは仙太郎
に嫌疑を置く事には
船長は継続して勤めさす事
但職掌の營業と盜難とは別物
として置に依る
主人よりの申渡は如斯にして引
続き船長を務むる事となりたる
も資金は盜難の爲め失ひ折角主
人の御恩も生活上益なきに於て
は盡しもならず依て澤井君に借
用の事を依頼し呉れとの事だ兼
て手紙も来り居し事故其資金と
して明治三十三年に金參百円貸
せと申送り素より仙太郎氏をし
て樂觀的惰氣を防ぐ趣意にて年
八朱利附証書を認めさせ送たり
り澤井君も快諾送金となりたり

此借用證は會計方として小室兼
蔵氏手に渡り同氏より仙太郎不
在中に返戻の督促ありたる事な
り私は始よりの経過も話し本人
不在の折柄なり且沢井君直接の
御話にあらざれば依り難き旨返
答致し置けり後に聞けば小室の
老人衆の命令にての事にて兼蔵
氏も敵談といふべき程にはあら
ざりき
明治三十七年に至り私は澤井君
に仙太郎氏へ貸附の金は返戻の
請求をさるゝ思召にや勿論借り
たるものは返すべきは言を俟た
ねど如何せん仙太郎氏が活路を
講ずる爲に貸されたる金殊に引
続き運を開いたといふ時宜にも
あらず。



平成五年度

由良地区公民館事業計画

【文化部】

市公連主催囲碁大会五月三十日
盆踊り大会 八月十四日
文化祭(婦人会と共催) 十一月 七日

同和学習

区民囲碁大会 二月 六日

自治学級

生涯学習講座 二年十三日

文化講演会

町づくり座談会 (分館行事) 一年一回

高齢化社会懇談会(分館行事)
文化教養講座 (分館行事)

各分館は右の内一講座を一回
歴史の館事業 毎月十日

公民館だより発行 年間三回

文化財保存会 随時

【体育部】

由良岳登山 四月二十九日

宮津市地区対抗駅伝競走大会 六月 六日

地区対抗女子ソフトボール大会 六月十二日

団体対抗男子ソフトボール大会 六月十三日

球技大会(野球、ソフト) 八月十四日

みやづビーチバレー'93 八月二十二日

区民大運動会 九月 五日

宮津市民駅伝競走大会 十月三十一日

区民フィットネス大会 十一月 十日

市民卓球大会 十一月二十八日

市民フィットネス交流大会 十二月 五日

市民綱引大会 十二月 五日

区民一般男女バレーボール大会 二月 六日

フィットネススポーツ教室 毎月第二水曜日

編集後記

◎ 宮津市地区対抗駅伝南部コース優勝。総合三位。更に岡田多恵子さんの栄光の谷川賞受賞。

みやづ女性スポーツフェスティバル優勝と大縄飛び最多賞。

宮津市公民館主催囲碁大会優勝と渡辺嘉三郎さんの全勝賞。

等々の由良チームの出場選手の健闘の様子や、受賞された方々の喜びの心境等の文が多く寄せられ、読み進むにつれて、自分でも大変心嬉しく、心温まるものを感じます。今後益々夫々の道でお互いに練磨精進されんことを祈ります。

◎ 四方寿朗先生の「健康いろはカルタ」は好評の内に最終回となりました。健康についての心得を医師の見地から、解り易く、興味深く、しかもさわやかに、二十五回にもわたりカルタになぞらえて書き続けて下されましたことに敬意を表します。

ご造詣の深い有意義なこのカルタを今後も折にふれ読み返し、大切にしたいと思っております。大変有難うございました。

◎ 中西夏江さんより、今回から郷土由良にかゝる歌や詩や文の解説を「文学の見える風景」として連載で投稿いたゞけるとなりました。

私達は、こよなく愛しているふるさと由良が、古くから歌に詠まれ、文学書の中に描かれて来ていることを、ひそかな誇りとして抱いております。これを今回の「由良の戸」から順次紹介して下さいます。ご期待下さい。(小室記)

